2016 年 6 月 17 日

報道関係者各位

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ

「インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ」一般社団法人化
～2016 年度は 12 分類 21 テーマのリファレンスモデル作成を計画、
さらに新規取り組み「IVI プラットフォーム」「地方ネットワーク」など活動内容を拡大～

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（理事長　西岡靖之、以下 IVI）は、2016 年 6 月 17 日に都内にて公開シンポジウムを開催しました。団体の設立より 1 年を経て「一般社団法人インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ」となり、日本版インダストリー4.0 への取り組み成果を報告するとともに、リファレンスモデル“ゆるやかな標準”作成へ昨年度以上に力を入れるとともに、新規取り組みを開始すると発表しました。

2015 年 6 月に設立された IVI は、正会員（製造業）94 社（大企業 63 社、中小企業 31 社）、サポート会員（IT 系・コンサルティングなど非製造業）42 社、学術会員 16 人、賛助会員 10 団体（2016 年 5 月 31 日現在）で登録総会員数 422 人の組織へと成長しました。
※会員リストは随時ホームページ上で公開しています。（https://iv-i.org/memberlist.html）

IVI 活動の成果として、ゆるやかな標準というコンセプトのもと昨年 2015 年度は 20 のワーキンググループ（以下 WG）が、リファレンスモデルの作成を行いました。その活動報告は、この 3 月に開催された公開シンポジウムで報告され、さらに 4 月にドイツのハノーバーで開催されたハノーバー・メッセ 2016 で西岡理事長より世界に向けて、「日本版インダストリー4.0 の取り組み」として紹介されました。また、ドイツ工学アカデミー（acatech http://www.acatech.de/）のヘニング・カガーマン会長と会見し、日本とドイツのインダストリー4.0 の研究開発で連携を進めていくことに合意しました。

「IVI は、一般社団法人となり組織体制がこれまで以上に強化拡大され“ゆるやかな標準”の拡充や地方展開を行うとともに、この成果をドイツやアメリカ、アジアなど海外へ積極的に発信して連携を進めていきたい」と、理事長の西岡靖之法政大学教授は語っています。

IVI では、これまでの活動に加えて新規取り組みとして「IVI プラットフォーム事業」、「地方ネットワーク事業」（4 都市：静岡、神戸、富山および選定中 1 都市）の取り組みを発表しました。IVI 活動の中心である「ゆるやかな標準」リファレンスモデルの作成は、今年度は昨年以上に幅広い領域かつ深いテーマの活動が計画されています。このリファレンスモデルの内容は、10 月開催予定の公開

シンポジウムで中間報告される予定です。

＜2016 年度のワーキンググループ一覧＞　※WG は暫定で変更される可能性があります。

１．生産技術：

－2A01 工程情報と製造ノウハウのテジタル化（ファシリテータ：ブラザー工業）

－2A02 設計変更時の生産準備情報の連携（ファシリテータ：富士通）

２．ロボット活用：

－2B01CPS によるロボットプログラム試算の有効活用（ファシリテータ：安川電機）

３．工程管理：

－2C01 人・物のリアルタイムなデータ収集によるタイリーな生産計画変更
（ファシリテータ：ＣＫＤ）

－2C02 工場内の超みえる化による最適管理の実現（ファシリテータ：ヤマザキマザック）

４．現場管理：

－2D01 先端ＩｏＴを活用した変種変量生産における作業者支援（ファシリテータ：コニカミノルタ）

５．品質管理：

－2E02 品質データのトレーサビリティ（ファシリテータ：いすゞ自動車、矢崎部品）

６．在庫管理：

－2F02 標準Ｉ／ＦによるサプライチェーンのＣＰＳ実現（ファシリテータ：東芝、日本電気）

７．調達管理：

－2G01 工程情報の共有と企業間連携（ファシリテータ：小島プレス工業）

－2G02 複数工場間での工程進捗と納期管理（ファシリテータ：富士通）

－2G03 スマートコントラクト活用による受発注・決済の合理化（ファシリテータ：ＤＴＳ）

８．中小企業：

－2H01 中小企業の水平連携と進捗の見える化（ファシリテータ：今野製作所、由紀精密）

－2H02 中小企業を中心とするつながる町工場
（ファシリテータ：エー・アイ・エス、西川精機製作所）

９．技能管理：

－2J01 人と設備が共に成長する工場ものづくり改革（トヨタ自動車）

１０．予知保全：

－2K01 プレス機とパネル搬送装置の予知保全（ファシリテータ：オムロン）

－2K02 エコな予知保全データ活用ビジネス（ファシリテータ：東芝）

－2K03 故障予知と設備ライフサイクルマネジメント（ファシリテータ：ダイフク、トヨタ車体）

１１．設備管理：

－2L01 設備稼働データによる保守／保全の効率化（ファシリテータ：東芝、電通国際情報サービス）

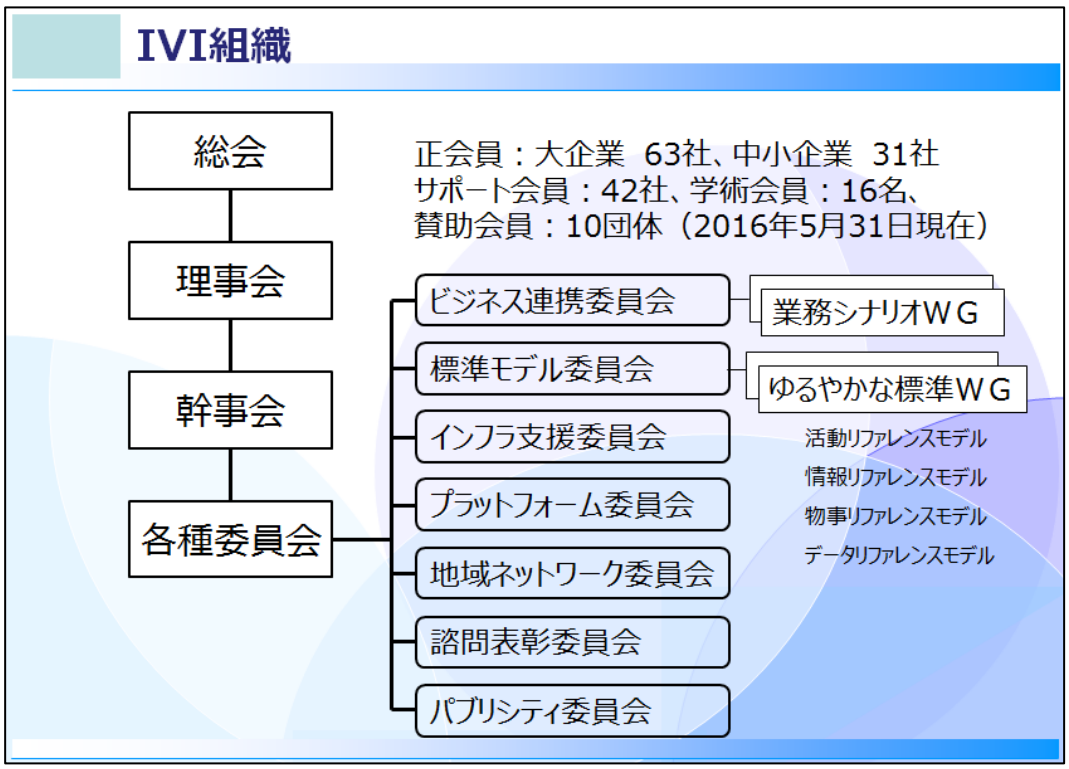
－2L02 設備と人の見える化による生産性の向上（ファシリテータ：神戸製鋼所）

－2L03 企業間の生産情報共有による生産リソースの相互融通（ファシリテータ：日立製作所）

１２．保守サービス：

－2M01 自社製品販売後のサービス付加価値向上（ファシリテータ：日本電気）

＜IVI 新組織体制＞



■ゆるやかな標準とは

異なる装置と装置がダイレクトに接続する場合は、厳格なルールや規約にもとづいた標準が必要となります。一方で、生産現場や、改善活動をともなう人が中心のしくみでは、厳格で細かすぎる標準は、かえって個々の特性や人の創意工夫を阻害する場合があります。ゆるやかな標準では、最低限の共通化すべき部分のみが規定され、個別の変更や部分的な改良を許容します。

■リファレンス（参照）モデルとは

リファレンスモデルとは、ゆるやかな標準として、対象となる工場の設備や、作業や、それらの関係をモデルとして表現したものです。個々の製品やシステムは、リファレンスモデルの内容と厳密に一致する必要はありません。リファレンスモデルは、個別の企業のケースに対応したつながるしくみを構築する際の参考にしたり、比較したりする際に利用します。

■インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（ＩＶＩ）とは

IoT 時代におけるものづくりと IT の融合によって可能となる“つながる”ものづくりを、“ゆるやかな標準”というコンセプトをもとに実現することを目的として 2015 年 6 月 18 日に設立された製造業を中心としたフォーラムです。ＩＨＩ、オムロン、川崎重工業、キヤノン、神戸製鋼所、小島プレス工業、今野製作所、ダイフク、東芝、トヨタ自動車、豊田中央研究所、ニコン、日本電気、パナソニック、日立製作所、富士通、マツダ、三菱電機、安川電機など、国内外で 150 社以上が参加しています。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1
モノづくり日本会議内
FAX：03-5644-7209
電子メール：office@iv-i.org
インダストリアル・バリューチェーン・イニシアチブ　事務局（担当：鎌田正雄）
ホームページ：http://iv-i.org/

＜報道機関からのお問い合わせ先＞

IVI 事務局　担当：鎌田正雄
電子メール：office@iv-i.org

以上